

周産期疾病を減らし、繁殖性をアップ

繁殖管理は、酪農経営において重要な項目のひとつです。しかし、繁殖管理は関係する要因が多く、改善に取り進む際にどこから取り組めばいいのか悩む場面が多いのではないのでしょうか。今回は、周産期疾病を減らすことに焦点を置き、「乾乳期管理」について取り上げます。

1 乾乳期管理のポイント

○ 腹いっぱい食べさせない  
乾乳期は、乳生産が無い分エネルギー要求量は低下します。しかし、胎児が成長するエネルギーを補うためや分娩時のエネルギー不足を起さないために、しっかりと食いつまませることが大切です。牛を正面から見て腹部が丸く見えるか(写真1)や左後ろから見てルーメンが膨れているか(写真2)を観察し、食いつまみの確認を行います。



写真1 食いつまんでいる牛

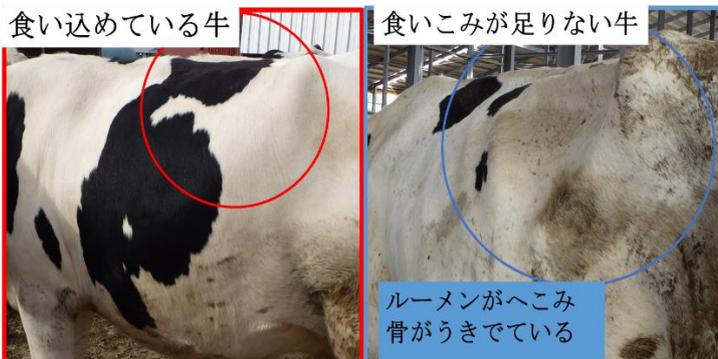


写真2 食いつまみによるルーメンの差

○ 食わせるために運動も

乾乳期に適度な運動をさせることは、乾物摂取量の向上につながります。特に、過肥になってしまった牛が餌を食いつまむためには、運動させることが大切です。そのため、乾乳牛群エリアは十分な広さを保ち、牛が歩き、運動できるスペースを確保することが理想です。また、乾乳牛舎に隣接したパドックや放牧地があると、頭数が変動しても対応しやすく、過密回避にも有効です。

○ 過密の回避

乾乳牛群は、頭数の変動が起こりやすく、過密条件が発生しやすくなります。過密になると、牛群内の序列が頭著に表れ、弱い牛の食いつまみが落ちる危険性があります。よって、過密回避は、乾乳期管理において重要です。乾乳牛1頭当たりのスペースを十分に確保し、過密を回避しましょう。

【乾乳施設の工夫事例】

左の写真は、ある牧場の乾乳牛群スペースです。本来乾乳牛群がいたスペースに加え、使わなくなったD型牛舎(元搾乳牛舎)を乾乳牛群スペースとし、行き来できるようにしています。歩くスペースが広がり、良い運動場となっています。



図1 乾乳牛群スペース確保の工夫

胎盤停滞スコア

- 1 ; 3時間以内に排出
- 2 ; 6時間以内に排出
- 3 ; 12時間以内に排出
- 4 ; 24時間以内に排出
- 5 ; 排出までに24時間以上かかった

区分	頭数	廃用牛頭数	廃用牛割合
スコア2以下	81	11	13.6
スコア3以上	10	4	40

※R3.10月～R4.7月の分娩牛を対象に調査

※廃用牛には自家廃用牛・繁殖供用を中止した牛も含む

表1 胎盤停滞の発生と廃用牛の関係

2 胎盤停滞を観察する

乾乳期を健康に過ごせたかは、分娩時疾病の有無で分かります。この農場では「胎盤停滞」に注目し、取り組んでいます。  
本事例では、胎盤の排出時間をスコア化し、分娩時に観察・記録しています。表に示したように胎盤の排出に時間を要する牛ほど廃用牛割合が高い傾向が見られます。「胎盤が残る」どこか調子が悪いかも知れない」と観察してみたいかがでしょうか。